

1 日頃の準備

水害について



降った雨が水路や下水道(雨水)などで排水しきれなくなることで発生する氾濫です。

川の増水により堤防が壊れたり、堤防から水があふれたりして発生する氾濫です。

土砂災害について

土砂災害は大きく分けて以下の3種類があります。



地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。

大雨や長雨などにより雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が、広い範囲にわたりゆっくりと動きだす現象です。

非常時に備えて

避難の方法、手順について事前に家族と相談、確認しておくこと、いざというときに慌てずに行動ができます。自治会などで実施している避難訓練に積極的に参加しましょう。

避難場所、避難方法などを家族で事前に話し合ひましょう。

- 避難場所、避難経路を確認しましょう。
- 避難時は家族別々で行動する可能性があるため、集合場所を決めておきましょう。
- 日常の予防策での役割と災害発生時での役割を決めておきましょう。

避難経路を歩いてみましょう。

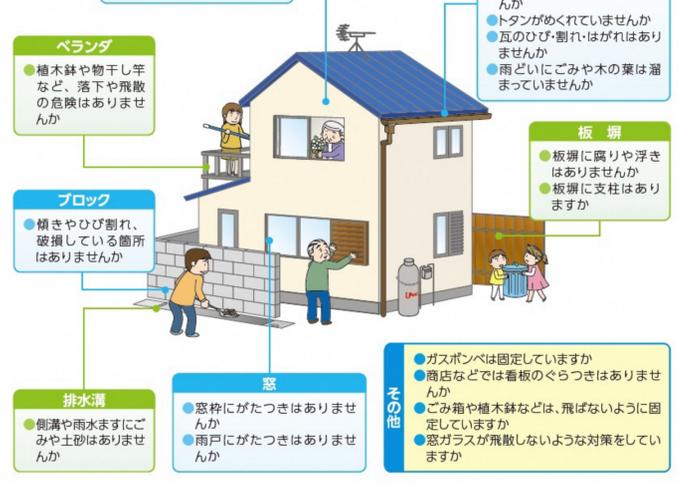
- 避難場所まで歩き、避難時に危険となる箇所を確認しましょう。
- 昼間の避難より、夜間の避難の方が危険なため、夜間に避難経路を歩いてみましょう。
- 隣接学区の方が自宅から近い場合もあります。避難所は複数確認しておきましょう。

※緊急時に身を寄せる避難先は、市が指定する避難所だけではありません。
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚・知人がいる場合は、日頃から相談し、そこへ避難することも考えておきましょう。

2 情報の入手

家屋被害を抑えるために

台風や大雨による被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防ぐことができます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が高い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておくこと、より効果的です。

簡易水防の作り方

家庭で使用しているごみ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて、中に半分程度の水を入れて、口を固く縛ります。

簡易水防の工法例①

プランター+ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを設置し、浸水を防ぎます。

簡易水防の工法例②

簡易水のう+止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせて出入りに設置し、浸水を防ぎます。

3 いざ避難

非常持ち出し品チェックリスト

避難が必要になった場合に備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておくことでよいでしょう。重さの目安は男性で15kg、女性で10kg程度です。

食品・水	救急・安全関係	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 乾パン・クラッカー・缶詰など、火を通さないでも食べられる物 <input type="checkbox"/> チョコレート <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ヘルメット(防災ずきん) <input type="checkbox"/> 救急医薬品(ばんそうこう・傷薬・包帯) <input type="checkbox"/> 病人やお年寄りの常備薬 <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 消毒液 <input type="checkbox"/> 体温計 <input type="checkbox"/> 口生用品	<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑、パスポート <input type="checkbox"/> 権利証書 <input type="checkbox"/> 免許証 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> クレジットカード類、マイナンバーカード
日用品	衣類など	その他
<input type="checkbox"/> 筆記用具、ノート <input type="checkbox"/> 乾電池など <input type="checkbox"/> ろうそく、ライター <input type="checkbox"/> モバイルバッテリー <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> 衣類(下着・上着) <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> 手袋、軍手 <input type="checkbox"/> 雨ガッパ <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> メガネ	<input type="checkbox"/> 洗面用具(歯ブラシ・石けん) <input type="checkbox"/> ほ乳びん <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 粉ミルク・液体ミルクなど <input type="checkbox"/> 介護用品 <input type="checkbox"/>

備蓄 ▶ 消費 ▶ 補充を繰り返す

ローリングストック(循環備蓄)とは、普段から使用する食材、加工品を多めに買って置き、使ったら使った分だけ買い足していくことで、常に一定量の食料を家庭に備蓄しておく方法のことを言います。この備蓄方法を行うことで、いざというときに日常生活に近い食生活を送ることができます。

雨の強さと降り方について(1時間雨量)

予報雨量 1時間雨量	やや強い雨 10mm以上～20mm未満	強い雨 20mm以上～30mm未満	激しい雨 30mm以上～50mm未満	非常に激しい雨 50mm以上～80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
人が受けるイメージ	ザーザーと降り、足元が濡れる。	どしゃ降り、傘をさしても濡れる。	バケツをひっくり返しても濡れる。	滝のように降る。傘をさしても濡れない。	息苦しいような圧迫感がある。恐怖を感じる。
屋外の様子	地面一面に水たまりができる。	道路が川のようになる。	道路が川のようになる。	水たまりが一面が白く、視界が暗くなる。	
車に乗っている	ワイパーを速くしても見えない。	ブレーキが効かなくなってくる。(ハイドロブレーキ(ABS)あり)		車の運転は危険。	
災害発生状況	長く続くときは注意が必要。	側溝や下水道、小さな河川が増水や氾濫。堤防の崩壊や決壊による災害が発生するおそれがあると予想されたとときに発表。	避難の準備が必要。下水道から雨水があふれる。	地下室や地下街に雨水が流れ込む。マンホールから水が噴き出す。多くの災害が発生する。	雨による大きな被害が起るおそれがあり、厳重な警戒が必要。

大雨・洪水に関する注意報・警報

下記のような場合、気象庁から「注意報」が発表されます。さらに、警報の発表基準ははるかに超える豪雨などが予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」が発表され、最大限の警戒を呼び掛けます。※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。

大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある 大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想されたとときに発表。 洪水 大雨、長雨、暴風などにより、河川の増水や氾濫、堤防の崩壊や決壊による災害が発生するおそれがあると予想されたとときに発表。	重大な災害が発生するおそれがある 大雨 大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想されたとときに発表。 洪水 大雨、長雨、暴風などにより、河川の増水や氾濫、堤防の崩壊や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想されたとときに発表。	「警報」よりもはるかに高い危険度 大雨 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想されたとときに発表。

記録的短時間大雨情報

数年に一度しかないような、短時間の猛烈な雨が観測された場合には、気象庁から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、周囲の状況や雨の降り方に注意し、少しでも危険を感じたときはすぐに安全な場所へ避難しましょう。

河川の水位情報

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、市は避難情報を発令します。各避難情報は、各河川で定められた水位の基準に達するなどの状況から判断し、発令します。

水位の名称など	避難情報の種類	経路湖	草津川	野洲川	野洲川	山崎川	金勝川
氾濫危険水位	避難指示	1.15m	4.3m	4.8m			
氾濫危険水位	避難指示	0.8m	3.4m	4.3m			
氾濫注意水位	発表なし	0.7m	3.1m	3.5m	1.3m	2.6m	
水防堤が崩壊する目安となる水位	発表なし			2.3m	2.5m	0.55m	1.2m
水防堤が崩壊する目安となる水位							
ふだんの水位							

上記の他、インターネットから入手できる河川防災カメラ(十神寺川・狼川・草津川・栗山川)、危機管理型水位計(伊佐川・伯母川・美濃川)の水位情報も避難行動の目安として有効です。河川防災カメラは滋賀県土木防災情報システム、危機管理型水位計は川の防災情報で確認できます。

市が指定している避難所の種類

広域避難所

被災者が一定期間の仮住まいをする施設として想定しており、多くの被災者を受け入れることのできる施設です。

避難所

比較的小規模な市の施設で、広域避難所を補完する避難所です。大規模災害では、まず広域避難所を開設し、地域の状況に応じて、避難所を開設します。

緊急時避難協力施設

洪水の発生時に周辺住民や通行者が逃げ遅れた場合に一時的に避難できる避難場所として、草津市と施設が協定を結んでいる施設です。

福祉避難所

災害時において介助が必要な人(高齢者や障害者、妊産婦など)に配慮した避難所です。要配慮者はまず最寄りの広域避難所に避難し、その後市の職員が福祉避難所へ受入を調整した上で、避難して頂きます。

要配慮者について

高齢者や障がいのある方、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人の方々など、災害時に何らかの支援が必要な人々に対しては、地域で協力し合いながら、安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。

高齢者・病人	肢体の不自由な方(車椅子)	目の不自由な方	耳の不自由な方
<ul style="list-style-type: none"> 背負って安全な場所まで避難する。 複数の介助者で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 階段では2人以上の支援が必要。上りは前向き、下りは後向きにして移動する。 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、背負って避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> 声をかけ情報を伝える。 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽くもつてもらい、半歩手前をゆっくり歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すときは、口をハッキリと動かし、相手にわかりやすいように話す。 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

4 いざというときの連絡先

名称	住所	電話番号
救急告示病院	医療法人誠光会草津総合病院 矢橋町 1660	077-563-8866
	近江草津徳洲会病院 東矢倉三丁目 34-52	077-567-3610
	西消防署 上笠町 477-1	077-568-0119
	南消防署 野路九丁目 1-46	077-564-4951
	草津市消防団第1分団詰所 草津三丁目 133-64	077-562-3500
	草津市消防団第2分団詰所 青地町 764-8	077-565-9560
	草津市消防団第3分団詰所 野路町 515-1	077-564-4969
	草津市消防団第4分団詰所 北山田町 60-3	077-563-1277
	草津市消防団第5分団詰所 片原町 288-9	077-566-3616
	草津市消防団第6分団詰所 川岡町 202-1	077-568-0457
	草津市消防団第7分団詰所 大路二丁目 9-11	077-563-6119
	草津市消防団第8分団詰所 野路九丁目 6-4	077-566-0119
	草津市消防団 KFFL 分団詰所 上笠町 477-1	077-568-0119

災害用伝言サービス

大災害発生時は電話の利用が急激に増加し、つながりにくい状況が数日間続くことがあります。このような場合は以下のサービスが開設されます。

災害用伝言ダイヤル171

固定電話・携帯電話などから、被災地の方の電話番号を入力して安否情報(伝言)の登録、確認を行うことができます。

171

をダイヤル

録音するときは

再生するときは

1

被災地の方も、被災地以外の方も被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルする

2

伝言を入れる

伝言を聞く

災害用伝言板(web171)

https://www.web171.jp/

スマートフォン・携帯電話・PCなどから災害用伝言板(web171)にアクセスすることで、テキストによる安否情報(伝言)の登録、確認を行うことができます。

※上記の他に携帯電話各社から「災害用伝言サービス」が提供されます。利用方法については各社ホームページなどでご確認ください。

わが家の防災メモ

わが家の避難先(親戚等・避難所など)	家族が離れ離れになったときの集合場所		
家族の名前	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号